

君田の自然



神之瀬峡県立自然公園(櫃田)

神しか渡る事の出来ないと言われた雄大な渓谷「神之瀬峡」は、見事な景観と豊かな自然、多彩な生き物が保全されていることにより、1998年(平成10年)に県内6番目の県立自然公園に指定されました。この渓谷は、水流の働きで岩塊を切り崩し、岩を削りながら長い年月をかけて形成されたものです。美しい景観を呈しており、この一帯は、希少な動植物の生息地でもあります。



小庵の滝(櫃田) 三次観光百選登録!

高暮ダムを目前にした「小庵の滝」入口看板から手すりのある階段を約5分登ると、高さ約30mの滝が4段となって流れ落ちています。貴重な植物が数多く自生する神之瀬峡県立自然公園内に位置する小庵の滝。苔むした岩や滝の上に垂れ込める多様な樹木など、変化に富む景観が楽しめます。樹木の中の静かな空気と、滝のパワーを感じる癒しの空間です。

※遊歩道を約150m上ります。



鳴ヶ滝(櫃田) 三次観光百選登録!

君田町を代表する鳴ヶ滝は水量もあり、静謐な雰囲気。広めの岩肌をふた筋に分かれて垂直に水が落ち、滝壺には透明度の高い豊かな水をたたえています。渡渉地点から少し上流にあがると、鳴ヶ滝の上の滝も見ることが出来ます。高さ約10mでふた筋の滝が音を立てて落水しています。

※アクセス ポイント:林道から急な階段を降りて行くため、滑りやすい靴は避け、転倒などに注意してください。

「鳴ヶ滝伝説」

むかし、この谷に“おなる”という大変器量の良い娘がいました。いつの頃から、夜にこっそり出ていき、夜遅く夜露に濡れて帰ってくるようになりました。不審に思った父親が後をついていくと、岸辺で“おなる”が男性と会っているのをおもわず声をかけました。男性は「姿を見られたからには、もうここには棲めない」と大蛇に変わり、雷光と共に雷鳴が響く中、川の淵に消えていきました。この男性は龍神だったのです。それを悲しんだ“おなる”も、やがてこの滝の淵に身を投げたのでした。その後、“おなる”をしのんで「鳴ヶ滝」と呼ぶようになったと伝えられています。

君田のお寺



福善寺(東入君)

丹花山福善寺は永禄12年(1569)僧願正によって開基されたという(芸藩通志)。一説によれば開創はなお古く、康応年間(南北朝時代)であり、高幡観音と関係があったという。

善照寺(西入君)

浄土真宗本願寺派の寺院で、正応年間(1288~1293)の開基といい、一説には慶長5年(1600)の開創ともいう。伝えるところによると、西入君永峯山(本亀城)の山頂にあったものを城主岸本兵庫の弟が法象地に移したという。

教念寺(石原)

明治36年(1903)布野村戸河内寺谷より現在地に移転した。(平成29年取り崩した)戸河内以前には、北条弥右衛門によって石原成願寺から戸河内に移され、真宗に改宗したとの記録がある。



高輪寺(櫃田)

寺伝によると大内義興の随臣吉田掃部助高義の次男高重が出家して「多聞寺」を県立したのが嚆矢だという。後、寺号を「円龍寺」と改め浄土真宗に帰属し、六世教明のとき高輪寺と改称した。

法泉寺(櫃田)

寺伝によると正平6年(1351)足利尊氏の配下である南部小滝丹後守源義清は尊氏の幼君明照公を供奉して櫃田市井谷に居城したが、幼君は痘瘡により夭折し、遺骨を沓ヶ原常福寺に埋葬したという。その後、明照法泉寺と改称したという。

君田の史跡・文化財



杵築神社(櫃田) 三次観光百選登録!

杵築神社は平安時代初期元慶2年(878年)に、出雲国杵築神社から分霊を勧請したと伝えられている、町内で一番古い社です。文明17年(1485年)武家の代官職は受け入れ難いと、農民達三四名が団結の証として連名で連判し、「櫃田村百姓連署起請文」をこの神社で誓って、尾道浄土寺へ差し出しました。杵築神社前の用水路側にある「ヒイラギモクセイ」は胸高3.35m高さ10mの巨木で県下1位といわれ、また、「スイリュウヒバ」は胸高2.5m、高さ12mで県下3位といわれています。鳥居の側にある丸い石2個は、娯楽のない時代、若者が集まって力比べをした「力石」です。



子どもの神様 番神さん(田和瀬、寺原、君田温泉) 三次観光百選登録!

御神体は、法華経守護の番神から天神擁護の番神として推移し、民間信仰、特に幼児の守護神として地域の人々に親しまれ、尊崇をされている神さまで。櫃田では、この「三十番神社」を通称「番神さん」と呼んでいます。参拝者は、古来から君田町内はもちろん、広く関東・九州にまでおよびます。子どもの健やかな成長を願い、氏名・生年月日を各種人形に書き込み祈願奉納されます。祈願成就のあかつきには、感謝の心を込めてさらに多くの三次人形などの人形が奉納されます。



高幡観音(石原) 三次観光百選登録!

高幡山は、君田を代表する山で、標高約665m。9合目付近に観世音菩薩を安置する巨大な石洞窟があり、昔は山獄霊場として有名でした。この洞窟観音堂は、鎌倉時代以前の山獄仏教のなごりがあると言われ、一時はこの高幡山を中心とした山獄仏教(真言宗 修験者=山伏)が相当繁栄した時代があったことが推測されます。この洞窟の前には「山伏の呼び岩」と言われる岩があり、食料がなくなった時には、山伏がこの岩の上から法螺外を吹いたということです。高幡観音には、洞窟内に不動明王など35体の仏像が安置され、入口に三面観音、岩屋の上に翼をもった天狗の像、岩屋外に5体の仏像が安置されています。東山林道からの参道には、石仏が100体も並べられ、参拝者や登山者の安全を見守っています。

君田を囲む山々

緑豊かな君田は東西南北、大小様々な山に囲まれています。高幡山には観音様が登山者の安全を見守っています。冠山や高幡山は君田小学校の校歌にも出てくるため、地元民には印象深い山です。

君田の山	標高(m)
船山(ふなやま)	939.7
冠山(かんむりやま)	843.8
大暮山(おおくれやま)	820
八頭ヶ丸山(はつどうがまるやま)	813.9
高山(たかやま)	803.2
伊久利山(いくりやま)	798.9
大谷山(おおたにやま)	728
安田山(あんだやま)	728
明谷山(あけだにやま)	724
判官山(はんがんにやま)	707
宮東山(みやひがしやま)	680
高幡山(たかはたやま)	664.8
狐塚山(きつねづかやま)	507
東山(ひがしやま)	470.3
西山(にしやま)	463.4
藪谷山(やぶだにやま)	373.2



君田自治区連合会作成

